

新 聞 新 聞 社

〒444-0103 愛知県額田郡幸田町
大字下草字 杉宜屋敷(杉汗) 63-1
夏の序曲に 季節の香り一杯 我が家の号
第348号 創刊1990年7月28日
Email: kokkei1949@yahoo.co.jp

滑稽新聞

明日死んでも後悔
ない人生の過一考
それは我慢や無理を
やめると言うこと

①薬の我慢(最少限
の服用とする) ②食事
の我慢(食べたものは食
べる) ③興味あること
への我慢(面白そうなら
やってみる) 初田登樹

大きな栗の 木の下で

小さい頃、大きな木の
ある屋敷を羨ましいと
思った。家と木と土地が
一体となった、暮らすべき
場所だ。今、この時期、栗の
木には、五月と一た新葉が
見事に繁り初夏の到来を感
じさせてくれる。



木の下で茶を飲む

朝、目を覚まし窓を開けると、太陽の光が木の葉の間から、木漏れ日となって目に入ってくる。夏庭にみる栗の木は、台風、強風、何度か折られた。しかし、その折れた部分から、新しい芽が伸び、今や堂々たる、大きな栗の木になった。一年で最も良い時期、五月。この木の下にテーブルと椅子を並べてお茶の時間を楽しんでいく。

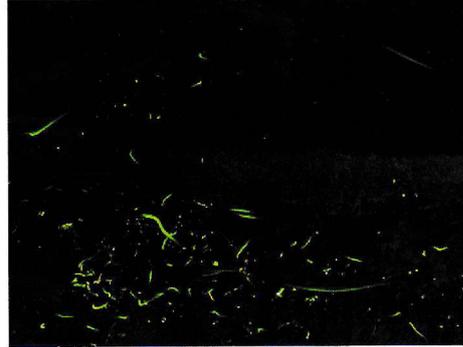
山の手(すぐ近くが山)の上流家庭(川上には余り家が
ない)と自他ともに認める我が家。これに、屋外喫茶
コーナーが加わって、もう立派な
リゾート地となった。妻が淹れ
てくれる茶(コーヒー)の香りが
どなたかの一時は幸福だ。
大きな栗の木の下で、午後、紅茶
ならぬ、午後のコーンタイムだ。



炊雲の宿は川端柳

と云う
唱歌が

歌われたのは何年前だ。たろうか？我が
家の裏を流れる川に、今年も数多くの落葉が
現れ、幻想的な闇夜の空に「さ」を見せ
てくれた。この美しい光景を何とか画像
に収めたいと思いつき、小林正治さんに撮影
をお願いした。無名なこんな場所にこんな
なにか飛んでいるなんて！と驚きと喜びの声を
上げた。この時期の限
られた期間にだけ現れ、結婚相手を探して思
いっきり光を放つ夜交う
姿は健気であり神秘的であり自然そのものを
飽きない愛おしい。
「ヒミツの川べり」どの登場人物は何度見ても飽きない愛おしい。



作品の登場人物を思いつく初挑戦

「暗闇でしか見えぬものがある」オゾウらや
先回の朝ドラカムカムエヴリバディで糸之丞が
言うセリフです。炊雲はまさに暗闇でしか見え
ません。まっ暗なので、小さな光であっても
とてもよく見えます。川に炊雲のえんこになる
カワニナがたぐさんいることと、まわりには人家が
少ないので人工の光がじゃまをしない
いからのもしれません。
連日、ウクライナのニュース報道に
心が痛みます。この暗い状況にあって
見えるものは何なのでしょう？



糸之丞 参考

